

# 資料 1

## ◎国史跡武蔵国府跡御殿地地区の保存、整備及び活用について

### 第1回会議における主な意見

#### 第2回会議協議にむけての具体的な提案・意見

- ◆1、可視化できるようにする。 2、にぎわいを求めるために史跡の保存に付加価値を付ける。
- 3、本市の史跡を関連付けて連携させる。思想をもった整備をすることが大事。

◆本市の史跡を関連付けて連携させる。

◆府中市の街としての魅力を高めていく必要がある。

◆遺跡の保存と埋蔵物の展示だけの施設から歴史が現代に役に立つ、価値のある施設を創造する。

◆運営と活用の視点からの武蔵国司・国府館公園をコンセプトにする。

◆徳川博物館、展望台、公園、広場を設置し活性化させる。

### 保存について

- ◆史跡保存という大原則は守る必要がある。
- ◆国司館の忠実な復元が必要であり、史跡公園にすべき。
- ◆歴史的な遺跡の保存は大事ではあるが、公園的なのはいかがなものか。
- ◆史跡の保存は最優先であり、調査結果を確かに保存する施設を造らなければならない。
- ◆本町駅前の広場にすると、競馬や競艇の人たちのたむろする場になってしまう恐れがあり、ごみ等が心配。

◆本町駅前の広場にすると、競馬や競艇の人たちのたむろする場になる恐れがあり、ごみ等が心配。

◆国史跡として求められる、史跡保存の水準をクリアする。

◆国司館、または家康御殿の復元建築物をつくる。市民に理解を得るには、眼に見えることが必要条件。遺構の様子がわかるように、復元建築物の中に展示をする。

◆徳川家康とのかかわりで、市内にある徳川関係の資料が一目でわかるようにする。例えば、大国魂神社にある東照宮を大々的にPRする。市内にある江戸城外堀の石を所有者の協力のもとに移設する。鷹場の標柱、徳川家の朱印状、徳川慶喜自筆の額など、徳川家のゆかりのものが、こんなにもあるんだということがわかるようにする。

◆千数百年の以前の時を越えて現代に現われた遺跡の数々は緻密な調査により結果をもたらせたものである為、守っていく必要がある。本町駅周辺と限定せず、街全体をテーマパーク化し、徐々に変えていけたら良いと思う。出土した国司館もそのまま伝え守っていくべきである。

## 保存について

- ◆国府公園とし、国庁その他の建造物の復元と国衛的建築イメージを復活し、環境の景観化をする。
- ◆国府公園（仮称）内は、国府関連をメインにして、御殿地・徳川関連はサブにする。（徳川関連は、希少価値が低い。ケヤキ並木と徳川を結ぶこと）
  - ・埋蔵物、資料展示・事務所、会議室等はふるさと歴史館を使用。
  - ・本施設は立体的ディスプレイ、ヴィジュアル、映像等デジタル的ディスプレイに集中させる。（おもしろい、わかりやすい、現代との比較等）
- ◆大原則は守り、家康御殿、国司の館等を再建・保存に努め、一般公開するとともに、広場などを設け、コンサートや遺跡祭り、徳川祭り等を行う。

国司館跡、家康御殿跡記念公園として整備する。

- ◆周辺の史跡、社寺と共に「歴史と伝統の街府中」の一環として整備し、保存と活用に努める。
- ◆史跡めぐりのコースを設け遊歩道を整備すると共に案内板、説明板などを設ける。
- ◆史跡内には駐車場は設けないが、周辺の史跡、社寺群を一体的に考え、適当な場所に既設のものも含め、整備する。
- ◆駅名、バス停名を史跡にふさわしい名称とすると共に史跡めぐりの巡回観光バスのルートを検討する。
- ◆観光資源を活用した街づくりの為の宣伝、パンフレットなどにつとめる。

## 第1回会議における主な意見

### 第2回会議協議にむけての具体的な提案・意見

## 活用について

- ◆市のイベントをこの場所でもやれるようにしてほしい。
- ◆四季折々の催しを行い、イベント造りの場として欲しい。文化と芸術の発信基地にして頂きたい。
- ◆整備には保存上の規制が多いようであり、史跡整備には、スーパーはよくない。
- ◆施設としては、広場なりを造り、広場への植栽など事業の付加価値をつける。
- ◆道の駅のような、一年を通して人が集まる場所がよい。

### ★観光

- ◆観光資源としての価値をはっきりさせることが大事。家康と関係のあるものは何でも取り入れる方向でいく。
- ◆地元商店街としては観光地化に力を入れ、人が来るような工夫がほしい。
- ◆施設の名称にも、固有名詞の「御殿地」や「御殿山」といった地名をネーミングに使うなど、いろいろと積み上げていく努力が観光資源になる。
- ◆観光ルートの拠点となる施設が大事。お祭りや行事を行えるイベント会場として、国司館・家康御殿を位置付ける。
- ◆「武蔵国府駅」とかの駅名の変更や、地域のマスコットキャラクターの作成。

- ◆道の駅のような、一年を通して人が集まる場所がよい。
- ◆地元商店街としては観光地化に力を入れ、人が来るような工夫がほしい。

- ◆公園、あるいは広場にしても「御殿」「鷹」などの文字をもりこみ、地名に歴史を記憶させる。

- ◆隣に計画されているマンションなどの活用もふくめ、「放鷹実演全国大会」のようなものが実施できる広場を確保したい。その実行団体として、市民、企業などの協力を得て、ファンドをつくる。年に1回定期的に開催したい。

- ◆植栽は何でも植えるのではなく、例えば、全部「もみじ」にするとか、インパクトがあって、はなやかさがあって、季節、季節に人が集まりやすいものとする。

- ◆国府、国衙などのPRが下手である。国府、国衙などといっても、関係者以外にはわかりにくい。もちろんそのことばを大切にしながら「武蔵国の首都であった府中」など、わかりやすいことばづかいにする。普通名詞としての「府中」と固有名詞としての「府中」の理解をすすめる。

- ◆史跡などの案内看板が、いわゆる「ステ看」であったり、プラスチックに布製のヒラヒラするような、まことに品格がない。木製のものを使用するなど、本物を感じさせる工夫がほしい。

- ◆小・中学校の児童・生徒に「府中」の地名がどこから生まれたかを、現地を歩きながら理解させる。特定の学年を定めて、市内の全児童らが見学できるようにする。

- ◆当該地の敷地内には、敷石を敷いて歩道、または広場を整備することになるが、後々のイベント開催を想定して、敷石に遊び心を加える。例えば、徳川家康にかかわる大名家の「家紋」の何種類かの石を、普通の敷石の中にバラバラに小さいものを敷いて、今回は「葵の紋」探しイベントなどとして、イベントに活用するだけでなく、児童生徒の教材としても活用しやすい。また、敷石だけでなく、建造物の中にも「家紋」を埋め込むのもおもしろい。「家紋」だけでなく、「ハート」の石も埋め込めば、イベントの多様性が図られやすい。

## 活用について

- ◆当該地区は南武線、武蔵野線の府中本町駅に隣接する地域であり、本町駅を中心とした街の活性化を図り、再開発の必要性が最も高い地区であります。  
京王線府中駅周辺の地域は南口再開発事業によりB地区、C地区が完了し、今やA地区の再開発事業が始まっており、これに対応するように府中市南地区の本町駅周辺の再開発は必要な一大事業と思考されます。しかしながら今回の調査により国司の館と家康御殿の史跡が発見されました。このため史跡の保存と再開発、本町地区の活性化と相反する状況となりました。この状況にある今、いずれかを主事業とするかを決定しなければなりません。  
以上のような状況下にある場合
  - ◆両者を統合する計画はできないものか。
  - ◆地区の活性化はできない状況でよいのか。
  - ◆史跡の保存は、いかなる方策を用いても地域の活性化はとても望めない。
  
- ◆市内の遺跡、観光場所も含めた場所を一巡するような“ちゅうバス”を走らせる拠点にし、拠点施設になる様な建物を造り、中内では道の駅のような地元物産・野菜・史跡キャラクター等を置き多勢の人達が集まるような所とする。  
ちゅうバス走行 平日は1日に2回以上、土日祭日は1日に4回以上、料金はちゅうバス料金とする。
  
- ◆近くの大國魂神社で四季開催される祭礼、神事に際し、協力するようなイベント・市を開く。5月の大祭には、神事で行われる神輿・大太鼓巡行の休憩場所、そして隣接する町内の山車を集め、お囃子の競演会を開催する場所にしたい。
  
- ◆様々なイベントや大國魂神社の祭礼などに合わせ広場としての活用や四季折々の街の魅力をアピールし、レベルの高いキャンペーン活動を行っていけると良い。又、来年も行ってみたいという再訪したいまちの印象を作っていくことが大事。  
観光として位置付けるのならば、本町駅前に限らず府中駅からの道をいくつかネーミングしたり、現況の商店街の改造化とか歴史に合わせた興味を抱かせる街づくりなどもしていったら良いと思う。  
例 「館通り」「鷹刈り通り」「古代通り」等（少々堅い）
  
- ◆本町駅南の発掘調査は全て終了したものではないというように解釈したうえで、改めてその上に緑の生い茂る広場とはとても恐れ多く感じる。よって、その場をより輝ける空間として生かすのは、樹木の植樹にこだわらない方が良いと思う。  
強いて云えば記念樹的なものを数本と、あとの部分は、地形の状態からして日当たりも良いので、芝桜のような根を深くはびこらせない草花などが良いのではないか。  
又、展示施設のようなものを建てるならばできる限りマンション側に背を向けて造り、少しでも景観を守っていけるようにするのが望ましいと思う。



## 第2回会議における協議の具体的な提案・意見

### 活用について

- ◆公園内には憩いの場所にふさわしい樹木、草花を配置し、全体として公園の雰囲気醸成する。
  - ◆公園内を国司館エリア、御殿エリア、イベントエリアに三分し、相互の連携をはかる。
  - ◆国司館エリア、国司館を復元（正確な復元でなく、それらしい建物でよい）し主殿と脇殿を設ける。  
主殿には発掘関係資料、古代関連資料などを展示し、史跡の保存につとめる。  
左右に脇殿を配置し、左殿には「どんど焼」「ひなまつり」「正月行事」「節句」「七夕まつり」「菊見」などの伝統行事、季節行事などの企画展を行なうと共に地域の行事「国司まつり」などのイベント関連の展示を行なう場所とする。  
右殿は市民の芸術活動を支援し、その発展に寄与する活動の場とし、例えば10畳程度の小ギャラリーを3室程度設け、市民の絵画、書、彫刻、陶芸などの美術工芸品を展示即売する場所とする。また観光、工芸グッズの販売の場も設ける。実技実演などは他の施設や活動と調整する。
  - ◆御殿エリアには御殿風の建物を復元し、地産の野菜、果物、加工食品などの売場を常設する。売場は生産者と消費者が直結する駅の道方式をとり入れる。  
接する場所に喫茶室、レストランを常設する。レストランでは地産の食材を生かした地域の特色あるメニューを用意し地域の食文化のセンターとする。
  - ◆イベント広場を両エリアの中間につくり、音楽、舞踏など多目的イベントが行える広場をつくる。発表の舞台は固定するが、観覧席はイベントの種類によって移動できるよう工夫する。イベント内容については他の施設や行事と競合しないよう調整する必要がある。
  - ◆イベントの内容は展示館の企画や他の施設とのイベントの調整、統合も必要であろう。
- 施設の企画運営について
- ◆運営主体は独立行政法人とする。施設の建設、保守、維持、修理は市で行なうが、経費の負担は原則として独立採算制とする。
  - ◆施設の設置目的が達せられるよう適当な監視、助言を果たせる機能を組織の中に置く。
  - ◆独立行政法人は公募とする。

- ◆近隣の人達に聞くと、ヨーカドーがなくなってから大変不便なので、「道の駅」のような日常的に人が集まる建物を造ってほしい。
- ◆ちゅうバスの停留所が府中本町駅にはないので、駅前に停留所がほしい。また、敷地内には駐車場が絶対に必要だと思う。
- ◆京王線府中駅と→大國魂神社→JR府中本町駅のルートを活性化させるものがほしい。
- ◆市のイベントを、府中公園だけでなく本町駅もできるようにしてほしい。
- ◆会議が2回で終わるが、これからも経過報告を聞きたい。
- ◆この土地を府中市で買って、もっと自由な使用方法というのはできないか。

- ◆毎月イベントなどを開催し、定着させる。また、ミニ公園とし、大賀博士の蓮池などを設置し、四季色とりどりの花の咲く樹木を植え、緑や水で周りを整える。

- ◆徳川御殿を復元し、徳川関係資料を集め、徳川博物館設置と、徳川関係物産コーナーを設け、販売し観光事業に結びつけることができるような建物の設置はどうか。昔から景観が良いところであり、展望台に立って多摩川対岸の多摩丘陵、遠くに大山、箱根から富士山、奥武蔵等パノラマ的景勝として展望できる。

## 第1回会議における主な意見

### 第2回会議協議にむけての具体的な提案・意見

## 連携について

### ★史跡巡り

◆府中のいろいろな歴史文化財のネットワーク化が大事。ふるさと府中歴史館、国衙跡などは歩いて回れるように案内整備する。

◆市内の観光ルートを、ちゅうバスのような交通機関で歴史巡りが出来るようにすれば、観光の売りになるとともに、本町の活性化にも結び付く。

◆車を使わずに府中駅から本町駅まで歩ける歩行者の観光整備を目指すといよい。

◆史跡巡りの遊歩道を整備できないか。

◆町全体を歩かせるうえで、観光の観点から、大國魂神社周辺の遺跡全体としての共通の駐車場を設けた方がよい。

◆市内の観光ルートを、ちゅうバスのような交通機関で歴史巡りが出来るようにすれば、観光の売りになるとともに、本町の活性化にも結び付く。

◆京王線府中駅と大國魂神社はけやき並木でつながっているが、府中本町駅、当該地、大國魂神社、国衙跡、国府八幡宮などをつなぐ、視覚的にもわかりやすく、歩きやすい歩道を整備する。

◆単に人が歩くことができればいいのではなく、「武蔵国の首都」を意識できる、情緒を楽しめ、雰意気を味わえる歩道とする。

◆当該地もふくめて、市内の主な史跡を結ぶ道路の街路樹を統一する。例えば、もみじの街路樹にそって歩けば、主な史跡に迷わずに行けるように。

◆大國魂神社付近に各史跡共用の大きな駐車場を設け、そこに車を止め、足で回れるようにする。観光バスが、大國魂神社の前の旧甲州街道に駐車して、参拝しなければならないというのは、致命的である。

◆最近、市が建築する建物には、歴史と伝統に配慮した意匠がうかがわれない。埋蔵文化財も一つひとつの発掘現場は小さいが、35年、1,500か所を発掘することによって国衙がわかったように、市はもちろん、民間の建物もふくめて、建築指導課が歴史と伝統に配慮した意匠の指導をすることによって、歴史と伝統のまちづくりをすすめる。市庁舎の建設などでは、大いに求められる要素である。熊野神社の「展示館」も、果たして古墳にふさわしい意匠であったかどうか。

◆府中を一つの歴史的テーマパークのようなとらえ方をすれば、市内の遺跡等、一巡するようにルート化していけたら商業の活性化にもつながると思う。

府中本町駅前のみならず、序々に発見された遺跡を活用して全体的、全市的に広げていく事が望ましい。歴史は動かないものなので、それを現代の私達がいかにうまく利用し伝えていくべきかを考えるのは非常にむずかしいし、短期間でそれを成し遂げることは更にであると思う。先づは今回発見された個所について考えるのなら、どこにでもあるような、単なる施設ではなく質の高い観光スポットとて整備していくのが望ましい。観光ガイドの養成も行っていくと良い。

◆とにかく国分寺史跡（国分寺市）とのコラボレーションで、観光のネット化、立体化を図るほか、市内の重要史跡との点から線・面的に拡大、「歴史ウォーク（歩く）」そして「ちゅうバス観光」を推進。

◆「歴史ウォーク」散策コース及び「ちゅうバス観光」コースの計画と環境整備（ガイドマップ作成）

◆ガイド、説明者の育成と募集。ボランティアと連携する

◆大國魂神社、国司の館、家康御殿、新たに中心とした市内遺跡を歩いて廻れる、案内標示、道路マップ、道路整備等して、歩くことによって豊かな時間を過ごすことにより、感激の度合いが違いより一層観光面につながり、商店街も潤い発展するのではないか。

## その他

◆市義会の議論でも、地元からも当該地をいかして、にぎわいの創出を求められているわけですから、「府中市観光振興プラン」はそれとして、文化財の担当課として、当該地だけでなく、市内の史跡等をいかしてどんな町づくりができるか検討してみてもはどうでしょうか。

◆弁慶の硯井戸、宮のめ神社、東照宮、鳳神社、鳩林荘、鼻取地蔵、松を使わない門松、子育て地蔵尊、北条政子伝説など、など、たくさんの観光資源があります。また、文学から府中を見ることもできます。農工大の山茶花の花木は、比類がないほどみごとです。これらが活かしきれていない感を受けます。

◆文化にかかわる人たちが、府中に住みやすい環境づくりをすすめる。府中市の場合、いわゆる文化施設の多くは市が設置しているが、民間が美術館などを設置できるような奨励を行う。